UDLM

4

vol.292

April 30th
2020

混乱の都市に踏み出す

p.2 COVID-19 とデザ研の今
p.3 新メンバー自己紹介！
p.4 研究室マガジン、装い新たに

URBAN DESIGN LAB. MAGAZINE

COVID-19 と 都市デザイン研究室の今

2020 年度は波乱の幕開けとなった。COVID-19 の影響でまず研究室が原則立ち入り禁止になり、その後まもなくキャンパスへの入構制限がかけられた。

新年度は研究室メンバーとの顔合わせやプロジェクト報告会など様々なイベントがある。不要不急の外出自粛要請がなされる中で、いかに研究室活動を維持するか、様々な試みがなされた。

プロジェクト

プロジェクトは大きな影響を受けている。人が集まるイベントやワークショップなどは軒並み中止・延期となった。

しかし、こうした状況下でも ZOOM などを活用し、資料作成や書籍の執筆など自宅でできる作業を着々と進めている。現地と直接かかわることが難しい状況下でも、活動を継続していく努力を重ねたい。

PJ名	今できている活動	COVID-19を受けて中止・延期したこと
上野	都市構想原案（まちのモデリングなど）、各種ネットベースのリサーチ	第2回アーツアンドスナック運動延期、空きテナント調査
手賀沼	建築学会梗概提出、学内ミーティング、マスタープラン作成に向けたネット資料整理	ヌマラボプログラム開催延期、工事施工（現地の方にやっていただくことになった）
高島平	学内ミーティング、輪読会、Googleストリートビューでフィールドワーク実験	地域の方とのワークショップ延期
富士吉田	学内ミーティング。住宅建て替えケーススタディ。HPを用いて展示や勉強会の代わりになることができないか模索。	地域の方との勉強会、現地調査
三国	プロジェクト内ミーティング。現地の人とslackでやりとりし、ケイン計画の最終検討。	2019年度活動報告会@三国、現地調査 三国祭も縮小開催に…
富山	書籍執筆！	特に無し
宇治	中宇治のベースマップ作成、モデリング	現地WS、建物実測
小高	建築学会梗概提出	まちなか菜園講習会の延期、現地住民との意見交換、川房公会堂でのお茶会
浦安	冊子の編集	特に無し

▲各 PJ の活動状況

研究室会議

研究室のもう一つの主要な活動である研究室会議は ZOOM を活用して行われている。

ZOOM を使用することで会議のレコーディングが可能になった。発表後にどのような議論が行われたかを見返すことができるため、自分自身研究に役立つと感じた。質問もチャットと音声を併用することで、以前よりも学生も含めて気軽に発言できる環境となった。

一方で、弊害もある。以前は研究室会議後に個人的に議論をすることがあった。この少人数での議論が役立つことも多かったが、ZOOM では一斉に会議が終了してしまうため、こうしたフランクな議論の機会は失われてしまった。

▲ ZOOM での研究室会議

顔合わせ、懇親会 etc.....

新年度は新メンバーを迎え、研究室メンバーの顔合わせを行い、その後懇親会を行うのが恒例だが、これも ZOOM を活用して開催された。

顔合わせや懇親会といった比較的フランクな場面でも、オンラインという相手の背格好が分からない中でのコミュニケーションはいささか事務的になるように思う。特に用事は無いが、研究室でたまたま顔を合わせ、無駄話をするようなコミュニケーションは、「相手に接続する」というステップを踏むことが必須な ZOOM でのコミュニケーションでは実現しにくいのではないか。オンラインでの「偶発的な無駄話」はどちらかというと Twitter のような SNS の方が実現可能性があるように思われる。

▲ ZOOM で乾杯！

プロジェクト報告会

毎年 4 月に行うプロジェクト報告会も ZOOM を使用してのオンライン開催となった。事前に参加登録をしていただき、ZOOMURL やパネル資料を共有するという形をとった。例年は工学部 14 号館 222 号室で開催され、参加者は都市工の院生が主だが、今回は学部生や他学科含め多種多様な方に参加していただけた。

多数・多様な参加者

参加人数：約 90 名（事前登録者：106 名）

- 例年に比べ、学部生の参加が多かった
- 東大建築も一定数参加
- 大都市工への進学を考えている他大学の学生が多い
- OB・OG が参加
- その他 NPO で活動している方も
- 先生にも例年より多くの方に参加していただいた

来年度は対面＋オンライン中継にすることで参加者の幅を広げられる？
現地の方に参加していただける可能性も！

参加者との空気感の共有・情報公開への注意

- 参加者をなんとなく把握できる、オープンだけれどオープンすぎない仕組みを、オンラインで担保することが非常に難しかった。
- 情報公開についても細心の注意が必要になった。
- 例年のパネルディスカッションをオンラインで置き換える仕組みづくりも難しかった。ZOOM のミーティングルームを分けて対応したが、PJ ごとに参加人数に偏りがあった。その場の雰囲気で色々な PJ を見て回ることがしづらかったようだ。

新メンバー自己紹介！私を表す１文字

今年度、都市デザイン研究室に７名の新しいメンバーが加わりました。出身研究室、興味、キャラクター、あらゆる面で多種多様な新メンバーの魅力は、型にはまった自己紹介では表せません。そこで、それぞれ「漢字１文字」に思いを込めて、自己紹介をしてもらいました。

M1 齊藤領亮 Ryosuke SAITO

①東京大学都市工学科 地域デザイン研究室
②大阪府堺市

好きな漢字：水

以前、五行占いで「水」だらけと言われ、妙に納得しました。とても流されやすい性格ですが、むしろ"機敏""臨機応変"と捉え、絶えず成長を繰り返していきたいです。

水

M1 河﨑篤史 Atsushi KAWASAKI

①東京大学都市工学科 都市デザイン研究室
②福岡県福岡市

好きな漢字：発

まず癶（はつがしら）がかっこいい。新しい環境で「発進」して行きたいという気持ちと、これまでの知識を使っていよいよ「発信」しようという気持ちで選びました。

発

M1 鈴木直輝 Naoki SUZUKI

①東京大学都市工学科 都市デザイン研究室
②新潟県新潟市

好きな漢字：笑

小学生の頃から好きな一文字です。自分が、相手が、皆が笑っているのが好きです。この状況が収束して、又は向き合いながら、皆で笑い合える日を心待ちにしています。

笑

M1 谷本実有 Miyu TANIMOTO

①千葉大学園芸学部 庭園デザイン学研究室
②東京都町田市

好きな漢字：実

名前の一文字であり「実直」「誠実」など真面目さを表す漢字なので、研究や実践に真面目に取り組み実りある修士生活にしたいと思い選びました！あと、果実が大好きなので。

実

M1 藤本一輝 Kazuki FUJIMOTO

①東京大学都市工学科 地域デザイン研究室
②埼玉県さいたま市

好きな漢字：甘

自分を追い込みすぎず程々に甘やかし、やがて降り掛かるであろう苦しみを甘受し、時には甘い夢の中に沈殿していたい。

甘

M1 松坂大和 Yamato MATSUZAKA

①東京大学農学部 緑地創成学研究室
②静岡県藤枝市

好きな漢字：和

自分の名前にも入ってるので（笑）。自分の振る舞いで意識してることでもあります。新元号にも入ったらいいな～とか思ってたら本当に入って嬉しかったです。

和

RS 金榮俊 KIM Youngjoon

①延世大学校一般大学院都市工学科
地域計画及び開発研究室（韓国･ソウル）
②韓国・ソウル市瑞草（ソチョ）区

好きな漢字：道

前に進むような形をしていて、また個人の生活から空間、歴史の流れまでこの一文字で示すことができるからです。

道

学年 名前 NAME

①出身大学・出身研究室
②出身地

好きな漢字

「好きな漢字」を選んだ理由

?

研究室マガジン、装い新たに

新年度、新たなメンバーを迎え心新たに歩み始めた都市デザイン研究室。
マガジンも装いを一新し、より親しみやすく、発信力のあるメディアとなるべく変わろうとしています。

● CONCEPT：よりポップに、親しみやすく！

紙面デザインを一新。これまでのクラシカルなものからポップなデザインになりました！
タイトルも略称の“UDLM”を大きく打ち出し、覚えてもらいやすくしました。

● POINT：書評コーナーを新連載！

書評コーナーを新設！各号研究室メンバー１人がおすすめ本の書評をお送りします。

どの本を選ぶか、どんな書評を書くか。そこからメンバーの個性や関心が垣間見れることを期待しています。ここからメンバー同士の議論が生まれると面白いですね。

外出自粛の今だからこそ、たくさん本を読みましょう！

ごあいさつ

昨年度、私がマガジン編集部に入ったとき、先輩に最初に質問したことは「マガジンは誰に向けて、何を伝えるための媒体か」でした。そしてこれは今でも自身の中で問われ続けています。

ところで、大学の一研究室が学生個人の見解を自由に社会に発信できる、こうした媒体を持つことは稀です。この自由な媒体の貴重さに気づいたのは、他の研究室に所属する同期の何気ない一言でしたが、その希少性を自覚してから、「マガジンは誰に向けて、何を伝えるための媒体か」という問いはその重みを増していきました。

マガジンの存在を支えるものとして、都市工学科の、とりわけ都市デザイン研究室の、学生の自主性を重んじる風土が根底にあると個人的に感じています。この自由に学問を追求できる風土は都市工学科の創設から紆余曲折を経て、先生方と先輩方により養われてきたものです。現在ではマガジンに限らず、研究やプロジェクトにおいても学生の自主性が重んじられています。当然、相手にするものは「都市」という他者ですから自主性の裏には常に責任が伴います。この責任こそが都市工学徒として学ぶべきことであり、そのために自主性は重んじられるべきだと考えています。

「マガジンは誰に向けて、何を伝えるための媒体か」。マガジン自身の存在や掲載内容によって、研究室内外に対し、学生の自主性が今も息づいていることを主張し続けるためのものという側面もあるのではないか。これが編集長を拝命した現時点での私の見解です。研究室が閉鎖された今、学生の自主性の真価が問われており、その役割はより強くなっていると考えています。

今年度の編集部は新たに修士一年の河崎、鈴木、藤本、松坂、陳の五名を加えた計八名で活動し、それぞれの目を通して「都市デザイン研究室」を発信していきます。どうか暖かく見守っていただけますと幸いです。

第十六代編集長　應武遥香

COLUMN

BOOK OF THE MONTH

術語集 II

中村雄二郎
1997 岩波書店

推薦者
M2 砂川

筆者がいうには、「術語」とは日常の言葉だけではよく見えなかった隠れた現実を明らかにし、目の前で起きていることを理解するのを助ける言葉のことです。「情報ネットワーク社会」をはじめとした、今だからこそ捉えなおしたい言葉ばかりです。

WEB MAGAZINE

続きは都市デザイン研究室 HP で！
https://ud.y.u-tokyo.ac.jp/ja/blog/

プロジェクト報告会開催！

毎年恒例のプロジェクト報告会、今年は初めてオンラインで開催しました。仕組みづくりなど苦労はあったものの、参加のハードルが下がったことで、参加者が８０名を超え、有意義な会となりました。(M2 宗野)

オンライン新入生歓迎会

４月から新しく研究室に入った M1 6名・研究生一名の歓迎会をオンラインで行いました。海外にいる方もオンラインで飲み会を楽しめました！コロナに負けず、オンライン研究室を楽しみたいです (M2 松本)

LOOKING BACK AT APRIL

8th	プロジェクト報告会
14th	新入生歓迎会
21st	アーツ＆スナック 運動実行委員会

研究室会議　9th,20th,27th

POSTSCRIPT

今年も桜は美しい。自分の住むニュータウンには多くの桜が植えられている。東京の桜も同じように美しいだろうか。好きな時に、好きな列車で、好きな人と盛緑を見に行ける時を待つばかりである。(M2 應武)

発行：東京大学都市デザイン研究室マガジン編集部
應武遥香・西野一希・宗野みなみ・河崎篤史・鈴木直輝・藤本一輝・松坂大知・CHEN Jinyu
発行日：2020 年 4 月 30 日